

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年8月5日

【四半期会計期間】 第35期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

【会社名】 コタ株式会社

【英訳名】 COTA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小田博英

【本店の所在の場所】 京都府久世郡久御山町田井新荒見77番地

【電話番号】 0774-44-1681(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 廣瀬俊二

【最寄りの連絡場所】 京都府久世郡久御山町田井新荒見77番地

【電話番号】 0774-44-1681(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 廣瀬俊二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第1四半期 累計期間	第35期 第1四半期 累計期間	第34期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	1,019,433	1,037,376	5,545,035
経常利益 (千円)	69,898	34,945	881,026
四半期(当期)純利益 (千円)	38,222	16,459	629,338
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	387,800	387,800	387,800
発行済株式総数 (株)	9,619,500	10,581,450	9,619,500
純資産額 (千円)	5,233,063	5,667,490	5,824,797
総資産額 (千円)	6,761,200	6,636,013	7,277,288
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	3.61	1.56	59.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	18.00
自己資本比率 (%)	77.4	85.4	80.0

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、四半期連結会計期間等に係る主要な連結経営指標等の推移については、記載していません。
- 2 売上高には消費税等は含まれていません。
- 3 当社には関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益については、記載していません。
- 4 平成25年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行いました。第34期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
- 5 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新政権下における金融緩和をはじめとした経済政策への期待感から円安・株高が進行し、緩やかな景気回復への動きが見られました。しかしながら、デフレ基調の改善や実体経済の回復までには至っておらず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

美容業界におきましても、来店客数の減少や客単価の下落等、依然、美容室にとって厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社におきましては創業精神である「美容業界の近代化」をベースに、独自のビジネスモデルである「旬報店システムを軸としたコンサルティング・セールス」と「トイレタリーの販売を中心とした店販戦略」を引き続き展開し、お取引先美容室の業績向上に向けた提案や経営に関する支援を行いました。

売上高につきましては、主力となるトイレタリーの販売が好調であったことから、前年同四半期を上回りました。

売上原価につきましては、「コタ株式会社 京都工場」に係る減価償却費等の低減により、前年同四半期を下回りましたが、販売費及び一般管理費につきましては、人件費等の増加により、前年同四半期を上回りました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,037百万円（前年同四半期比1.8%増）、営業利益は32百万円（前年同四半期比50.7%減）、経常利益は34百万円（前年同四半期比50.0%減）、四半期純利益は16百万円（前年同四半期比56.9%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、以下のとおりであります。

トイレタリー

トイレタリー（シャンプー、トリートメント）は当社の主軸となる製品群であります。毛髪のダメージケアに対する消費者の関心の高まりから、一般市場品におきましても高付加価値なトイレタリー製品へのニーズが増加しております。

当社では、美容室の来店客に対する毛髪及びヘアスタイルのカウンセリング提案をベースに、トイレタリーの主力製品である「コタ アイ ケア」を中心とした店販を継続して提案・推進いたしました。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は650百万円（前年同四半期比7.5%増）、セグメント利益（売上総利益）は487百万円（前年同四半期比12.3%増）となりました。

整髪料

ヘアスタイルの多様化に伴い、一般市場品との競合が激しいセグメントとなっております。

当社では、従来の主力製品である洗い流さないタイプのトリートメントに加え、昨年発売した新製品「コタスタイリング SH」及び「コタスタイリング メイク ニュアンスミルク/リッジミルク」を中心に、美容室での毛髪及びヘアスタイルのカウンセリングを通じた店販の推進に注力いたしました。

しかしながら、当第1四半期累計期間の売上高は183百万円（前年同四半期比8.1%減）、セグメント利益（売上総利益）は141百万円（前年同四半期比9.7%減）となりました。

カラー剤

白髪を染めるグレイカラーと若年層中心のファッションカラーを含め、一般市場品との競合が激しいセグメントとなっております。

当社では、主力の「グラフィカ」におきまして、販促ツールを利用した販売や新規開拓に積極的に取り組んでまいりました。

しかしながら、当第1四半期累計期間の売上高は83百万円（前年同四半期比20.7%減）、セグメント利益（売上総利益）は56百万円（前年同四半期比27.5%減）となりました。

育毛剤

一般市場品との競合が激しいセグメントとなっておりますが、美容室でのヘッドスパメニューに対する消費者の関心が高くなっております。

当社では、主力の「コタセラ」シリーズを中心に、頭皮の洗浄や育毛効果のあるヘッドスパメニュー等の導入提案に注力いたしました。

しかしながら、当第1四半期累計期間の売上高は39百万円（前年同四半期比9.6%減）、セグメント利益（売上総利益）は31百万円（前年同四半期比12.4%減）となりました。

パーマ剤

ヘアスタイルのトレンドがパーマに回帰する傾向は見受けられず、パーマ市場は引き続き減少傾向にあると推測されます。

当社では、昨年発売した新製品「コタウェーブ リジカル」を通じて、美容室に対してパーマメニュー及びパーマスタイルの提案を積極的に行ってまいりました。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は33百万円（前年同四半期比15.8%増）、セグメント利益（売上総利益）は22百万円（前年同四半期比11.6%増）となりました。

その他

美容室で利用されるDMやチラシ等の販促物の販売、施術時に使用する美容小物品等の販売、美容室の店舗改装及び出店時に必要な美容器具類の販売、並びに美容室のアシスタントスタッフを対象とした美容技術を学ぶことができる講座である「コタ アカデミー」の受講料等の収入を計上しております。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は46百万円（前年同四半期比27.2%増）、セグメント利益（売上総利益）は25百万円（前年同四半期比55.6%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

（総資産）

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末から641百万円減少し、6,636百万円となりました。

主な要因としては、たな卸資産が211百万円増加し、売掛金が305百万円、有価証券が559百万円減少したことによるものであります。

（負債）

当第1四半期会計期間末の負債は、前事業年度末から483百万円減少し、968百万円となりました。

主な要因としては、未払金が264百万円、未払法人税等が269百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末から157百万円減少し、5,667百万円となりました。

主な要因としては、利益剰余金156百万円の減少によるものであります。なお、自己資本比率は、85.4%（前事業年度末80.0%）となりました。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発費の総額は54百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

新政権下における金融緩和をはじめとした経済政策により、本格的な景気回復への期待感が高まる一方で、エネルギーコストの上昇等、景気の下振れ要因への懸念もあり、今後も国内景気や企業の経済活動にとって先行不透明な状況が続くと推測されます。

美容業界におきましても、来店客数の減少や客単価の下落等、依然、美容室にとって厳しい経営環境が続いております。

このような状況ではありますが、当社におきましては創業精神である「美容業界の近代化」をベースに事業活動を行うことには何ら変わりなく、「旬報店システムを軸としたコンサルティング・セールス」と「トイレタリーの販売を中心とした店販戦略」に引き続き注力する考えであります。当社といたしましては、現在のような厳しい経営環境のときこそ、美容室経営をサポートするコンサルティング・セールス及び旬報店システムが真の力を発揮するものと捉え、美容室における毛髪及びヘアスタイルのカウンセリングや店販等の具体策をもって付加価値の高い美容室づくりを提案し、お取引先美容室の繁栄と美容業界の近代化、そして当社の着実な成長を目指してまいります。

また、当社の主力製品である「コタ アイ ケア」をはじめ、昨年発売いたしました新製品「コタスタイリング SH」、「コタスタイリング メイク ニュアンスミルク/リッジミルク」及び「コタウェーブ リジカル」の販売につきましても、引き続き拡販を図るとともに、高付加価値ブランドへ育ててまいりたいと考えております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,944,000
計	31,944,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,581,450	10,581,450	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株 であります。
計	10,581,450	10,581,450	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日(注)	961,950	10,581,450	-	387,800	-	330,800

(注) 平成25年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、所有株式数を1株につき1.1株の割合をもって分割いたしました。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 3,600	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,576,500	95,765	(注) 1
単元未満株式	普通株式 39,400	-	(注) 2
発行済株式総数	9,619,500	-	-
総株主の議決権	-	95,765	-

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が600株（議決権6個）含まれております。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が45株含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) コタ株式会社	京都府久世郡久御山町 田井新荒見77番地	3,600	-	3,600	0.0
計	-	3,600	-	3,600	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、監査法人和宏事務所による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	31,861	54,834
受取手形	75,301	61,395
売掛金	1,000,925	695,250
有価証券	1,860,620	1,300,735
商品及び製品	468,639	643,537
仕掛品	9,278	22,574
原材料及び貯蔵品	157,673	180,490
その他	127,108	136,093
流動資産合計	3,731,408	3,094,911
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,457,413	1,469,340
土地	1,158,906	1,158,906
その他(純額)	546,768	524,707
有形固定資産合計	3,163,087	3,152,954
無形固定資産	83,621	77,691
投資その他の資産	299,170	310,456
固定資産合計	3,545,879	3,541,101
資産合計	7,277,288	6,636,013
負債の部		
流動負債		
買掛金	38,006	93,529
未払金	388,125	123,619
未払法人税等	273,200	3,868
賞与引当金	164,216	77,520
役員賞与引当金	-	5,651
販売奨励引当金	26,752	44,747
その他	109,826	146,771
流動負債合計	1,000,126	495,708
固定負債		
退職給付引当金	12,365	15,920
役員退職慰労引当金	335,480	346,606
長期預り保証金	104,518	110,288
固定負債合計	452,363	472,814
負債合計	1,452,490	968,523

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	387,800	387,800
資本剰余金	330,800	330,800
利益剰余金	5,107,758	4,951,132
自己株式	1,895	2,518
株主資本合計	5,824,462	5,667,214
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	335	275
評価・換算差額等合計	335	275
純資産合計	5,824,797	5,667,490
負債純資産合計	7,277,288	6,636,013

(2)【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,019,433	1,037,376
売上原価	278,219	272,637
売上総利益	741,213	764,738
販売費及び一般管理費	675,125	732,167
営業利益	66,088	32,571
営業外収益		
受取利息	368	395
受取配当金	2,407	1,678
受取賃貸料	1,327	1,502
雇用調整助成金	887	1,350
その他	3,280	996
営業外収益合計	8,271	5,923
営業外費用		
投資有価証券売却損	2,420	-
たな卸資産廃棄損	211	1,070
賃貸費用	911	786
固定資産除却損	194	1,011
その他	722	681
営業外費用合計	4,460	3,549
経常利益	69,898	34,945
税引前四半期純利益	69,898	34,945
法人税、住民税及び事業税	930	930
法人税等調整額	30,745	17,554
法人税等合計	31,676	18,485
四半期純利益	38,222	16,459

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	97,458千円	79,971千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	157,357	18.00	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	173,085	18.00	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	トイレタリー	整髪料	カラー剤	育毛剤	パーマ剤	計		
売上高								
外部顧客への売上高	605,159	199,581	105,077	44,104	28,574	982,496	36,936	1,019,433
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	605,159	199,581	105,077	44,104	28,574	982,496	36,936	1,019,433
セグメント利益	434,077	156,315	78,002	36,525	20,091	725,012	16,201	741,213

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、美容室で利用されるDMやチラシ等の販促物の販売、施術時に使用する美容小物品等の販売、美容室の店舗改装及び出店時に必要な美容器具類の販売等、並びに美容室のアシスタントスタッフを対象とした美容技術を学ぶことができる講座である「コタアカデミー」の受講料等の収入を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	725,012
「その他」の区分の利益	16,201
セグメント間取引消去	-
全社費用(注)	675,125
四半期損益計算書の営業利益	66,088

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

当第1四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	トイレットリー	整髪料	カラー剤	育毛剤	パーマ剤	計		
売上高								
外部顧客への売上高	650,635	183,457	83,341	39,872	33,100	990,406	46,969	1,037,376
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	650,635	183,457	83,341	39,872	33,100	990,406	46,969	1,037,376
セグメント利益	487,395	141,216	56,523	31,987	22,414	739,537	25,201	764,738

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、美容室で利用されるDMやチラシ等の販促物の販売、施術時に使用する美容小物品等の販売、美容室の店舗改装及び出店時に必要な美容器具類の販売等、並びに美容室のアシスタントスタッフを対象とした美容技術を学ぶことができる講座である「コアカデミー」の受講料等の収入を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	739,537
「その他」の区分の利益	25,201
セグメント間取引消去	-
全社費用(注)	732,167
四半期損益計算書の営業利益	32,571

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3円61銭	1円56銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	38,222	16,459
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	38,222	16,459
普通株式の期中平均株式数(株)	10,577,791	10,577,080

- (注) 1 当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 2 日

コタ株式会社
取締役会 御中

監査法人和宏事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 南 幸 治 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大 嶋 豊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているコタ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第35期事業年度の第1四半期会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、コタ株式会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。